

介護者の会だより

新しい年が明けて1か月が経ち早くも2月3日は節分ですが、豆まきで邪鬼を払い、福を呼び込むことはできましたか？



私は年賀状でのご挨拶をやめたことで、今年の干支が何なのか知らず、息子に教えてもらいました。

今年は何年（うまごし）ですね。干支は12種類の動物、「子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥」であらわされ、午は7番目にあたります。

子供のときから不思議に思っていたのですが、どうして「馬年」ではなく「午年」と書くのでしょうか。 「午」の字は、普段よく使う場面では「正午」「午前」「午後」などの時間を表すときに使いますが、なぜでしょうか。その理由は、江戸時代までの時刻や方角を表す方法に干支が関係しているためです。

現在は、1日を24時間として生活していますが、江戸時代までは1日を12の「刻」に分けて生活していました。その「刻」を表す方法のひとつが、年を表すのと同じ干支（子、牛、寅・・・）で時刻を数える方法です。干支は古代中国から日本に伝わったときに農民などにもわかりやすいよう、身近な動物が割り当てられたそうです。

干支で時刻を数える場合、午前0時前後を「子の刻」とし、そこから2時間ごとに丑、寅・・・と順に進んでいくと、ちょうどお昼の12時が「午の刻」となります。そこから12時を正午と呼び、午の刻より前が「午前」、午の刻より後が「午後」と呼ばれるようになります。

そして今年は何年か。60年に1度の丙午（ひのえうま）にあたるそうです。昭和の時代では丙午に生まれた女性は気性が激しい、夫を食い殺すといった迷信が存在していました。60年前の丙午（昭和41年）では日本各地で産み控えが起こり、出生数は前年の182万人より約46万人も減少したそうです。現代の考え方で

してはとても信じられません。

そして、今、日本の出生数がどのくらいなのか気になって調べてみたら・・・2024年の出生数は約68万人でした。60年前の出産控えがどれほど凄い規模であったのか思い知らされ、迷信というものがこれほどの影響力を与えることに驚きました。

「午年」は力強く前へ進む姿から物事が順調に進む年、運気が上向く年ともいわれています。みなさまにとっても、順調に着実に前へ進んでいける年となりますように・・・



淡路市では「介護者の会」「家族介護者教室」など定期的に開催されています。

介護者の会にご参加いただき、思いをわかちあいませんか。日時・場所等の詳細は、淡路市広報に掲載の介護者の会予定表をご覧ください。